

平成23年度 第2回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 平成24年2月20日（月）第3回帯広市健康生活支援審議会終了後
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 堀修司部会長、小林靖副部会長、菊池英明委員、渡邊秀教委員、永井由美子委員、
稲葉秀一専門委員、森茂樹専門委員、若田部紀代子専門委員

4. 会議次第

- (1) 前回会議の議事録（案）の確認
- (2) 平成24年度健康推進課関係予算（案）について
- (3) その他

5. 会議内容

○事務局

お晩でございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成23年度第2回地域医療推進部会を開会させていただきます。

本日の委員の出席は、地域医療推進部会、委員9名中、8名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、部会長にお願いいたします。

○部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、「前回会議の議事録の確認について」を議題といたします。

この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっておりますので議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

○全委員

異議なし

○部会長

別にないようですので議事録は了承されたものといたします。

では次に、「平成24年度健康推進課関係予算（案）について」を議題といたします。

事務局、説明願います。

○事務局

それでは、平成24年度健康推進課関係予算（案）について、ご説明いたします。

資料は1と2になりますが、始めに「資料1」をご覧ください。

平成24年度健康推進課予算の概要であります。総事業費は、8億6千2万3千円でありませ

す。内訳といたしましては、左上に、記載してありますように保健衛生総務費が1億2千841万

1千円、そのうち、保健衛生推進費が1千99万8千円、食・運動改善推進費が86万6千円、公衆浴場対策費が1千564万8千円 などとなっております。

なお、一番下にあります介護老人保健施設整備補助事業費であります。これは、医療法人社団 博愛会が今年の6月に介護老人保健施設を開設する予定となっておりますが、この施設整備の補助であり、既に、債務負担について議決されており、5年間で債務を解消することになっております。

平成24年度につきましては、1年目の債務負担の解消分として計上しており1千946万6千円となっております。

続きまして、右側に行きまして、予防費は、総額で4億6千348万円となっており、がん検診・健康診査費が、2億1千335万4千円、予防接種費が、1億8千368万6千円、感染症予防費が、4千759万2千円などとなっております。

続きまして、左下に行きまして、保健福祉センター費は、保健福祉センターの管理に要します経費で4千467万7千円を計上しております。

最後に、右下になりますが、夜間急病診療費で、2億2千345万5千円となっております。

内訳といたしましては、夜間急病センターの管理運営費が、1億2千860万1千円、在宅当番や二次救急医療など、救急医療対策費が8千340万2千円、夜間急病センター改築費、これは基本設計、実施設計費であります。1千145万2千円となっております。

続きまして、資料の2、平成24年度 健康推進課関係予算及び主な事業」であります。

左側に、平成20年度からの24年度までの5年間の予算額と対前年度の増減額の推移を記載しております。

左下の「折れ線グラフ」を見ていただきますと、一番上の線が、合計額ですが、平成20年度から22年度にかけて、同程度で推移しておりましたが、平成23年度は前年度に比べ、1億3千664万円の増となっております。

この増の主な要因は、平成23年度の新規事業でありました大腸がん検診の無料クーポン事業や子宮頸がんや細菌性髄膜炎などの3ワクチンの接種費用助成事業などががん検診、予防接種経費の増によるものであります。

平成24年度は更に7千762万6千円の増となっております。

続きまして、下の円グラフは平成24年度の予算の構成比であります。予防費が53.9%、夜間急病診療費26%、保健衛生総務費14.9%の順となっており、いずれも、括弧書きの前年比と同程度となっております。次に、「平成24年度の主な事業」についてであります。資料の右側をご覧ください。始めに、「けんこう帯広21」の次期計画の策定であります。また、「けんこう帯広21」の計画が平成25年3月31日で満了するため、平成23年度に引き続き、策定に取り組むものであります。

次に、新規事業の「家族・地域の絆を育むふれあい銭湯事業」であります。この事業につきましては、家族・地域の絆を育むとともに子どもたちの公衆マナーの向上、環境負荷の低減、入浴需要の喚起を通して浴場経営の安定化を図るため、市内の公衆浴場が行う無料開放事業に対し助成を行うものです。

次に、子宮頸がん予防ワクチンなど「任意接種ワクチンの接種費用助成事業」であります。平成24年度も継続して実施するため、必要な予算を計上しております。対象者につきましては、子宮頸がん予防ワクチンは、中学1年生～高校1年生相当の女子、ただし、平成24年度に高校2年生になる女子については、平成23年度までに本事業により1回目又は2回目の接種を

した場合に限り対象とします。

ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンは本年度と同様となっております。

次に、「託児付きのがん検診」であります。女性特有のがんである、子宮がん、乳がん検診の実施日にお母さん方の受診環境を向上させるため、託児付きの検診を実施するものです。

次に、「自殺対策の推進」についてであります。自殺対策につきましては、平成21年度から国の補助事業を活用し、市民向けの普及啓発事業や関係機関、職員が資質向上のための講習会等に取り組んでおりますが、4年目になる24年度につきましては、携帯電話やパソコンを利用して簡単にストレスチェックができる「こころの体温計」を導入するものです。

最後に、「夜間急病センターの整備」についてであります。先程も説明いたしましたが、老朽化に伴う移転改築のため、平成24年度は設計に係る予算を計上し、平成25年度には工事の着工平成26年度に開設を予定しております。

説明は、以上でございます。

○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

なければ、その他について、事務局から説明を願います。

○事務局

それでは、その他といたしまして、「帯広市夜間急病センター再整備に係る取組み状況について」説明させていただきます。

「資料3」をご覧ください。

まず、主な経過であります。昨年11月9日に、帯広市健康生活支援審議会において、帯広市夜間急病センターの再整備に係る審議について、本部会に委任され、同日に行われました部会において、再整備についてのご報告をさせていただきました。

その後、17日には、市議会の厚生委員会に、同様の報告をさせていただくとともに、12月9日には、帯広市医師会の理事会において、説明をさせていただきました。

今年に入りましては、1月19日に厚生委員会が開催され、30日には、帯広市救急医療対策検討会議の幹事会、2月2日には検討会議の親会が開催され、本日、報告しております取組み状況について、ご報告させていただいてきたところでございます。

また、15日、16日には建設予定地周辺の住民の皆様への説明会を開催したところでございますが、今後も、2つの町内会で開催を予定しております。

17日には、平成24年度予算の記者発表が行われ、夜間急病センターの整備事業費につきまして先程も説明いたしましたとおり、当初予算として計上いたしております。

再整備に係る取組み状況の説明は、以上でございます。

○部会長

この資料には、夜間急病センターの整備についてしか載せていないが、内科・小児科について、在宅当番医制で、毎日、19時～21時の夜間と日曜・祝祭日の日中に実施しておりますが、整備後においては市から夜間急病センターを使って、医師が出向して診療をできないかという、いわゆるセンター化についての提案があり、それについて市民や出向医師にとってどのような影響があるかなどを協議してきました。また、一次救急である夜間急病センターが整備され、利便性が高くな

ると、今まで二次、三次救急医療機関へ行っていた患者も減少する可能性もある。医師会としては、本日付けの通知でセンター化の方向で計画を進めるように進言いたしました。

夜間急病センターの整備に関して、何かご質問やご意見はありますか。

○委員

前回の協議で、医師の高齢化が進んでいるが、センター化により10年位は大丈夫ではないかというお話があったと思う。

○委員

10年位というわけではなく、救急医療体制を考えるにおいて、今後10年、20年、30年維持していける体制をどのようにしたら良いかが協議のスタートであったと思う。医師会においては30年程度在宅当番医制を行ってきているが、実施している無床の診療所と病院において、医師の高齢化や内科、小児科医の減少といった問題が起きてきている。そのような中で今後の一次救急をどのようにするか、マンパワーをどのように集約するかについて、医師会としても考える必要があり、移転改築に併せて改善をしていきたいが、いろいろな考えの医師もいるため、まとめていくには時間がかかる。

○部会長

このまま在宅当番医制を続けていても、当番医療機関は少なくなる、医師が高齢化し、参加する医療機関が少なくなっていく可能性もあり、5年後にはどのようなになっているかわからない。センター化によって、1つの病院から2、3名の医師が参加する可能性や、管内の町村からも医師が来ていただける可能性もでてくる。

○委員

札幌市や旭川市も夜間急病センターはあるが、在宅当番医制も並行しておこなっており、それぞれ地域の現状もあることから、これを一遍に無くすのはなかなか難しいが、今後の地域の医療体制を考えると、部会長が言っている方向で進める必要がある。

また、コンビニ受診も増えているので、これについても歯止めをかけるようにしたい。今は在宅当番医を公表しているが、逆にコンビニ受診が増えている可能性もある。

○部会長

他にございませんでしょうか。

なければ、その他について、事務局から説明願います。

○事務局

今回の地域医療推進部会の日程であります。日程等につきましては、部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○部会長

以上で予定されている議事は全て終了しました。

それでは、本日の会議はこれで終了いたします。